

開幕100日前を迎えてのご挨拶

2015年、いよいよミラノ万博開幕の年となりました。1月21日をもって開幕まで残すところ100日となります。ミラノ万博は、「食」をテーマに開催される史上初めての国際博覧会です。日本館は、「Harmonious Diversity –共存する多様性–」を出展テーマに掲げ、日本の農林水産業や食をとりまく取組みや、日本食・日本食文化に詰め込まれた知恵と技を紹介するとともに、食糧問題など地球規模の課題への貢献可能性についてメッセージを発信します。また、ユネスコの無形文化遺産にも登録された和食、そして食を彩る食器等の伝統工芸品やクールジャパン・カルチャーを紹介する絶好の機会と捉えています。

日本館の準備状況ですが、現地では建築工事が順調に進んでおります。これから急ピッチで会場整備が進められ、より万博ムードが高まっていくことでしょう。また、日本館2階に設置されるイベント広場、レストランにつきましても、関係者の皆様のご協力の下、着々と準備が進められております。

ぜひ多くの方々がミラノを訪れられ、日本館をはじめ各国のパビリオンに足をお運びいただき、それぞれの体験を通じて「食」の将来について考えるきっかけにいただければと願っております。

開幕の年を迎え、私ども日本館関係者一同、より一層気を引き締めて準備を進めてまいる所存です。皆様におかれましては、変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



2015年ミラノ国際博覧会陳列区域日本政府代表 加藤辰也

■いよいよ万博イヤーの2015年を迎え、ミラノ万博・日本館への期待高まる

開幕の2015年を迎え、ミラノ万博、日本館への期待が盛り上がり始めています。年末年始にはテレビ・新聞を中心に多く取り上げられました。テレビではNHK「つながようニッポン!めでたいカレンダー」、テレビ朝日「年越しクイズサバイバー」、フジテレビ「ご褒美トラベル」、TBS「あさチャン!」、テレビ東京「未来世紀ジパング」等の番組で、新聞では朝日新聞、日経新聞、毎日新聞をはじめとする全国紙のほか、地方紙、専門紙等で関連記事が取り上げられました。ミラノ万博、そして日本館への注目度が高まってきていることが伺えます。

■ 日本館の建設、順調に進行中

万博会場では日本館の建設が着々と進行中です。他のパビリオンと比べても、比較的早いペースで工事が進んでおります。現在の日本館の姿をお届けします。(2015年1月撮影)



日本館1階/アプローチ



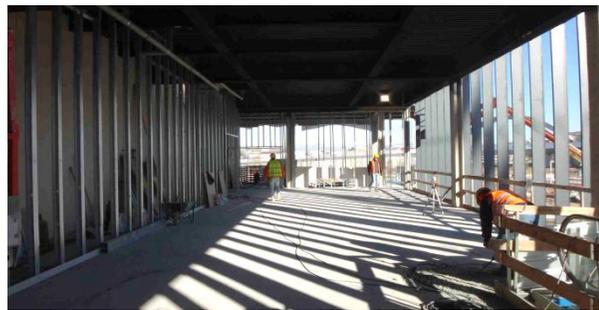
日本館2階/イベント広場



日本館全景



日本館2階/Scene V



日本館2階/ホワイエ

■ 日本館の概要をまとめたフライヤーを制作

日本館の概要をまとめたフライヤーを制作しました。日本館の展示、イベント広場、レストランなどの情報を、A4一枚に凝縮して掲載。裏面にはミラノ万博の概要も紹介しています。日本館の情報を手軽にご案内できるツールですので、ぜひ日本館のPRにご活用下さい。

□ フライヤーはこちらからご覧いただけます。<<http://www.expo2015.jp/about/>>



■ミラノ万博関連ニュース

・ロシアがパビリオンデザインを公開

昨年12月、ロシアがパビリオンのデザインを公開しました。コンセプトと設計は、モスクワに建設中の超高層ビル、フェデレーションタワーのプロジェクトなどで知られる建築家セルゲイ・チョーバン氏が率いる建築事務所Speechが手掛けました。4,000平方メートルの敷地に建設されるこのパビリオンは、過去の万博からのソビエト館あるいはロシア館の伝統である、大きく、かつダイナミックなデザインを特徴としています。これまでも、ロシアのパビリオンは建築で高い評価を得てきており、1937年のパリ万博ではグランプリを、2010年の上海万博では銀賞を獲得しています。ミラノ万博では、ロシア館は日本館の東隣に位置します。



・万博のプロジェクトWE -Women for Expo-がアライアンスを立ち上げ

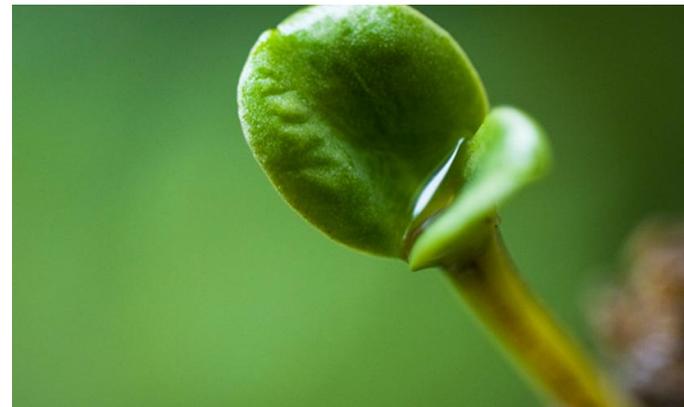
万博関連プロジェクトWE-Women for Expo の委員会会合が12月9日に開催され、世界の女性がフードロス（まだ食べられる食料の廃棄問題）に立ち向かい、農業での女性の役割の強化を目指すアライアンスが立ち上げられました。クリスティーン・ラガルドIMF専務理事らも参加し、女性の社会的役割や、ミラノ万博が女性の農業・食・ビジネス分野での新しい生き方（paths）について話し合う機会となることについて、ディスカッションを行いました。WEは万博会期中の6月29日～7月9日の期間、関連のイベントやディスカッションを予定しています。またWEはミャンマーでこのアライアンスについて紹介し、ミャンマーの政治家であるアウンサンスーチーさんを万博へ招待しています。



■ミラノ万博関連ニュース

・食と栄養に関する優れた非営利の取組を表彰するコスモス賞が募集開始

昨年12月、食と栄養に関する革新的な非営利の取り組みを表彰するBIEコスモス賞の募集が開始されました。この賞は「時代の革新と社会の進歩に貢献する市民活動」を顕彰するため、2008年、博覧会国際事務局(BIE)によって設立されたもので、1990年の「国際花と緑の博覧会」(大阪)で創設された国際花と緑の博覧会記念協会が実施を支援しています。今回は食料への普遍的アクセスの確保、食の安全と質の向上、健康的な食生活の維持、持続可能な発展などに貢献するプロジェクトを募ります。選ばれたプロジェクトには万博の会期を通じ認知度を高める機会が与えられるほか、優秀なプロジェクトには賞金が提供されます。応募締切は2015年1月30日です。



□ 応募要項は以下URLよりご覧いただけます。

<http://www.bie-paris.org/site/en/news/87-news-announcements/bie-activity/786-bie-cosmos-prize-bie-expo-milan-2015-expo-2015-world-expo-food-nutrition>

・新政府代表の就任発表に合わせ米国大使が米国館を訪問

昨年12月、ジョン・フィリップス駐イタリア米国大使が建設中の米国館を訪問し、パビリオンの頂点に設置される梁に署名を行いました。また、米国・ワシントンではケリー国務長官よりダグラス・ヒッキー新米国政府代表の着任が発表されました。ヒッキー政府代表は、ワインビジネスを手掛けるBinWise社のCEOを務め、通信・インターネット・宇宙工学で20年以上の経験、サンフランシスコのベンチャー投資企業では10年を超えるキャリアがあります。



■ミラノ万博関連ニュース

・ローマのイルミネーション、一部ミラノ万博をテーマに実施

第4回目となるローマ市内のクリスマスライトアップが、2014年12月8日から2015年1月6日まで行われました。コルソ通りでは、今年のミラノ万博にちなみ、144の参加国とEUの旗をデザインしたイルミネーションが掲げられました。このイベントを手掛けるPR会社ラウラ・ロッシ・インターナショナルの社長ラウラ・ロッシ氏は「壁を壊しましょう。我々の明確なメッセージは、全ての人々の人類愛と連帯についてのものです。私たちは互いを支える必要があります。人々の団結は今、これまで以上に、私たちの子供たちの未来を象徴するものなのです」と述べました。このイベントは、イタリア統一150周年を記念して2011年に始まり、以来、毎回テーマを決めて開催されています。環境に配慮し、照明にはLEDが使用されました。



・食に関するショートフィルムを世界の農業・畜産業・漁業関係者から募集

ミラノ万博では、「Everyday Bread and Water (日々のパンと水)」をテーマに、人々の生活の物語や、人々の地球との関わり、伝統と関連した食の知識についてのショートフィルムを募集しています。国際的な受賞歴がある映画監督エルマンノ・オルミ氏らによるこのプロジェクトは、主に農業・畜産業・漁業に携わる方々の制作した作品を対象としています。映像の長さは6分以内。使用言語やフォーマットの指定はありません。応募締切は2015年の3月25日までとなっています。



□ 応募要項は以下URLよりご覧いただけます。

<http://www.expo2015.org/en/collective-theses-by-ermanno-olmi.-you-have-until-march-25-to-take-part-in-the-exhibition>

※本通信に掲載の記事・写真・イラストは、日本館がミラノ万博公社(Expo 2015 S.p.A.)等の許諾を得て使用しています。